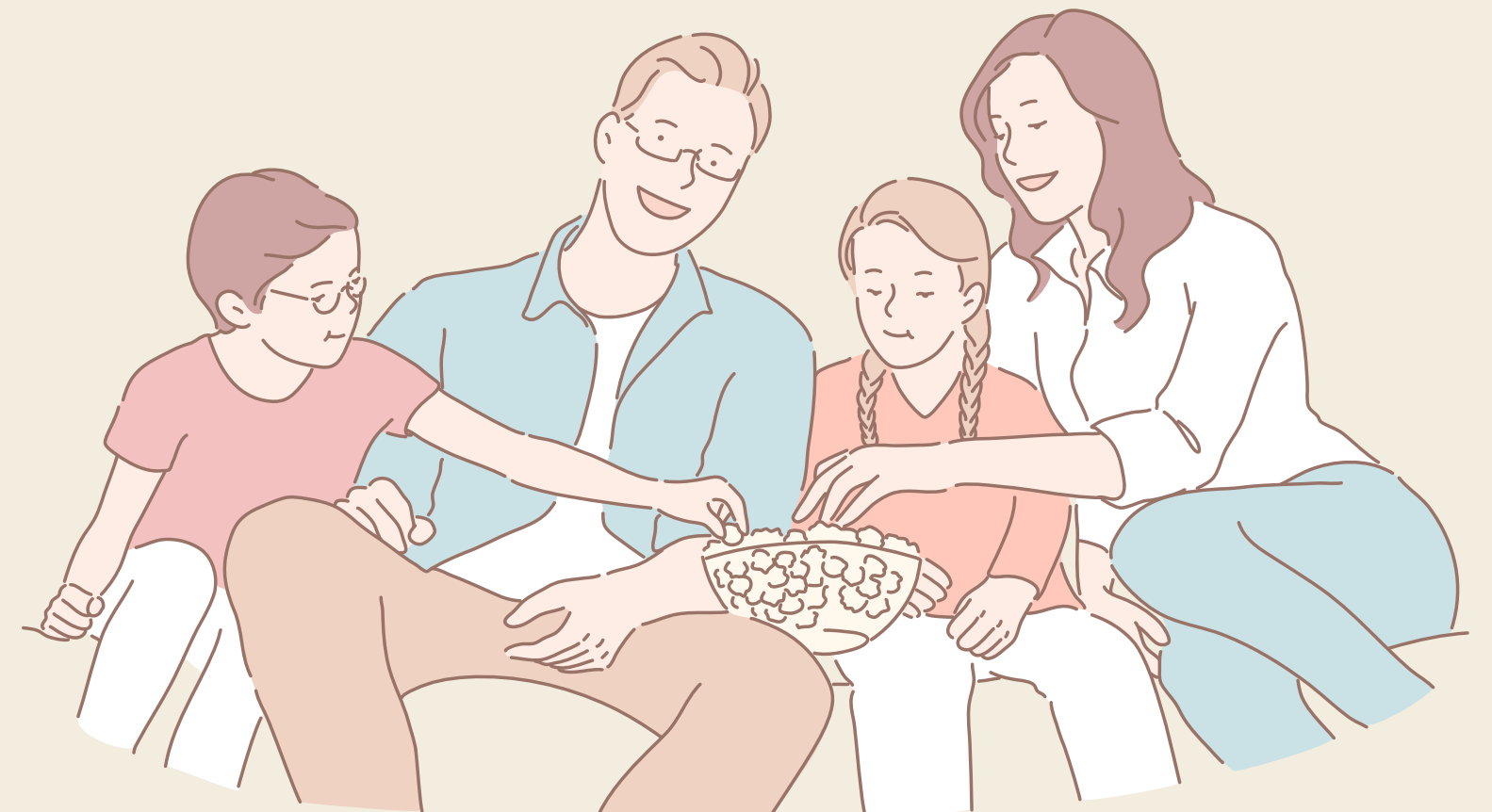


# 人生100年時代の マネーデザイン④

ーリスクを理解するー



# 投資と投機の違い

## 投資

➤ 利益を得る目的で、有望な投資先に**長期的**に資金を投じること。

## 投機

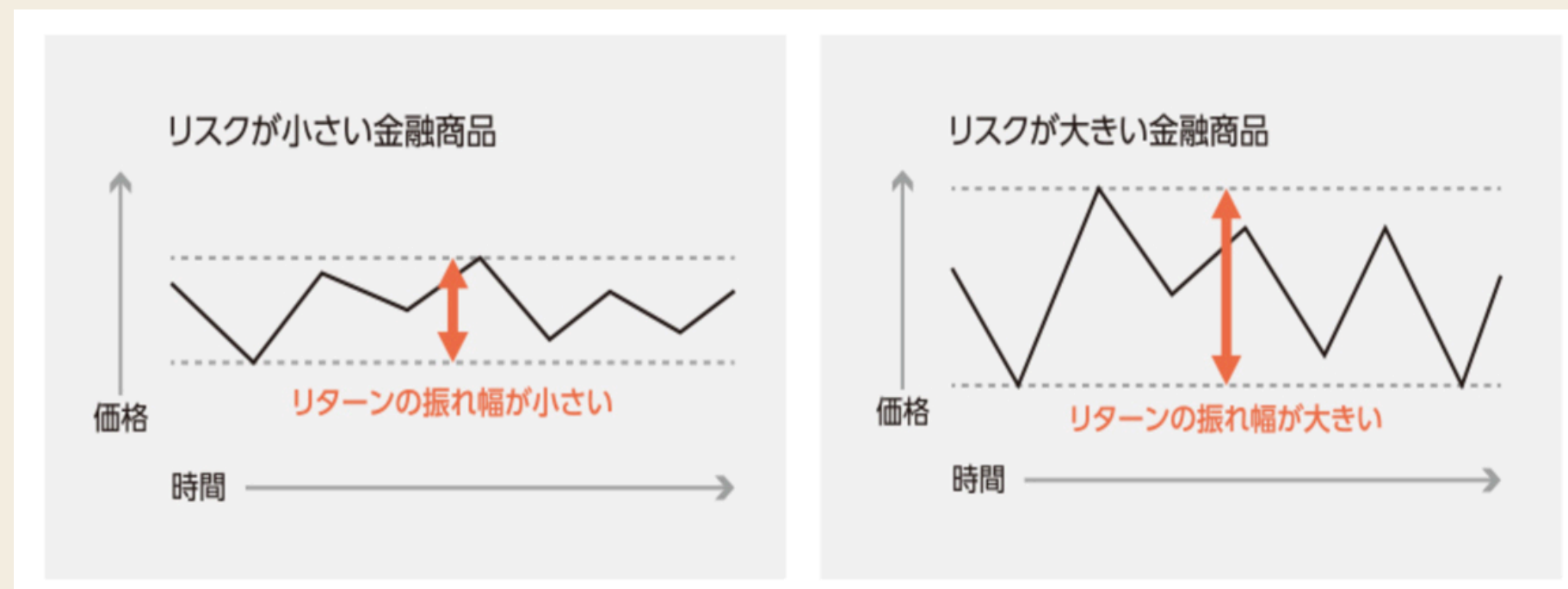
➤ 相場の変動を利用して利益を得ようとする**短期的**な取引のこと（ギャンブルに近い）。  
一獲千金を狙うというのも投機。

## リスクとは？

「**リスクが高い = 損すること**」 と思っていませんか？

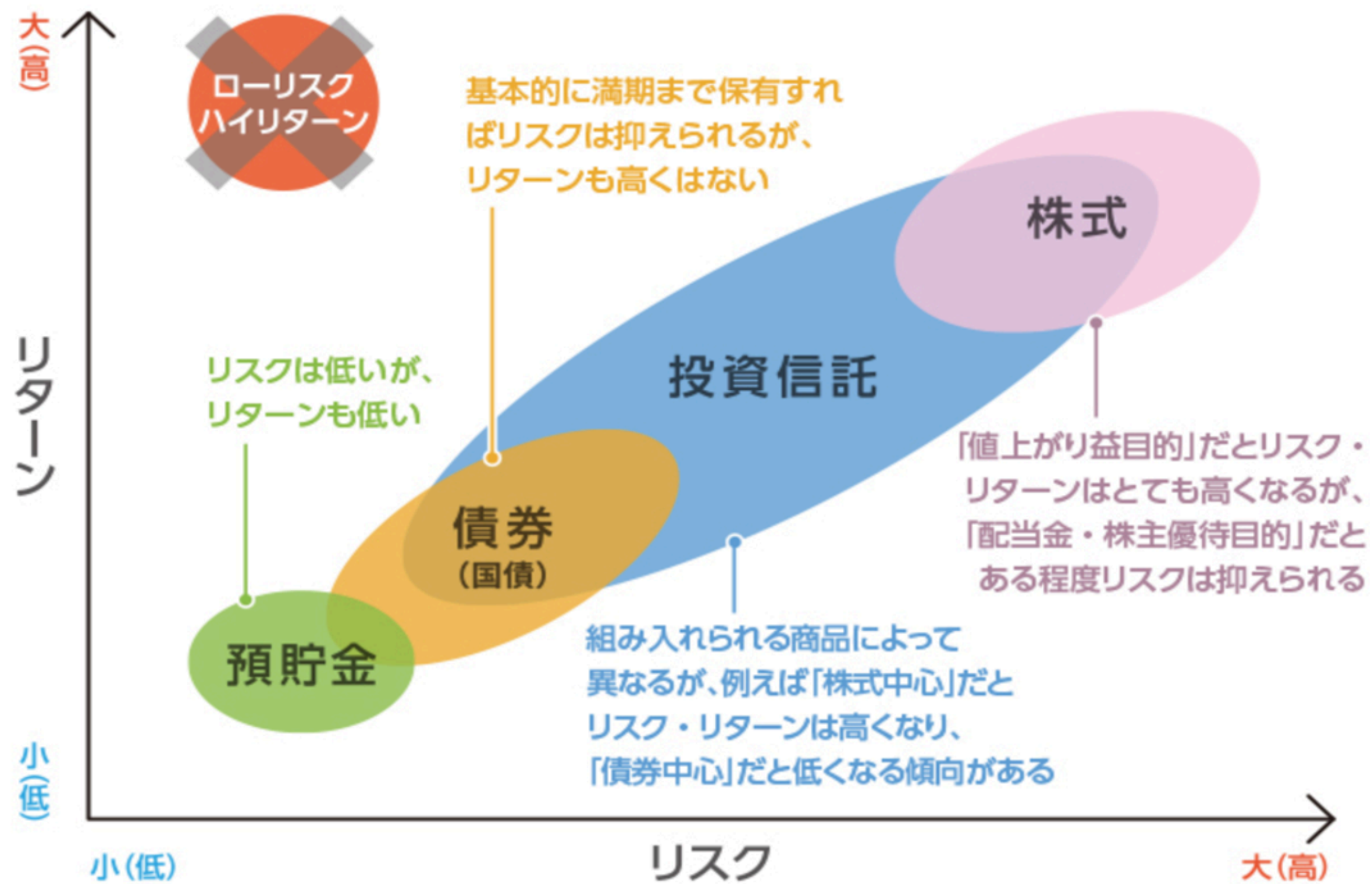
「**リスク**」という言葉、投資の世界ではちょっと意味が違います。  
資産運用でいう**リスクとは、価格がどれくらい上下に動くか**  
(**= 振れ幅**) のこと。

「**リスクが高い = 損すること**」ではなく、**大きく増える可能性もあるけど、大きく下がることもある**ということ。



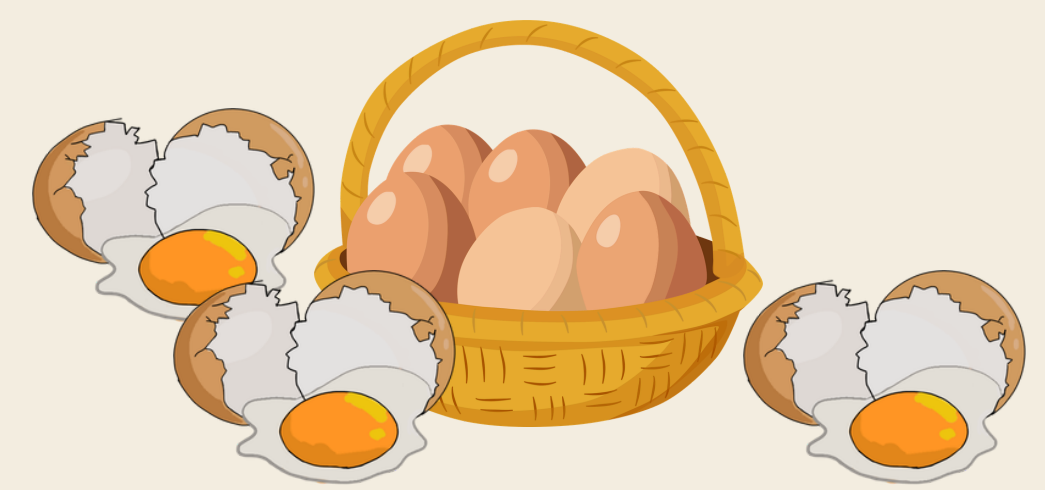
(出典) 日本証券業協会Webサイト

# リスクとリターンの関係



※これは一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

## 投資の3原則（リスクコントロール）



### 長期投資

- ・投資を長期間続けると、**分散投資や複利の効果等**があいまって、**結果的には元本割れする可能性が低減**できる。

### 分散投資

- ・**1つの資産だけに投資するよりも、投資信託等をとおして値動きの異なる複数の資産に分散投資を行うこと**で、**価格の変動が小さくなり、リスクを軽減**することが期待できる。分散投資には、**資産分散、時間分散、地域の分散**がある。

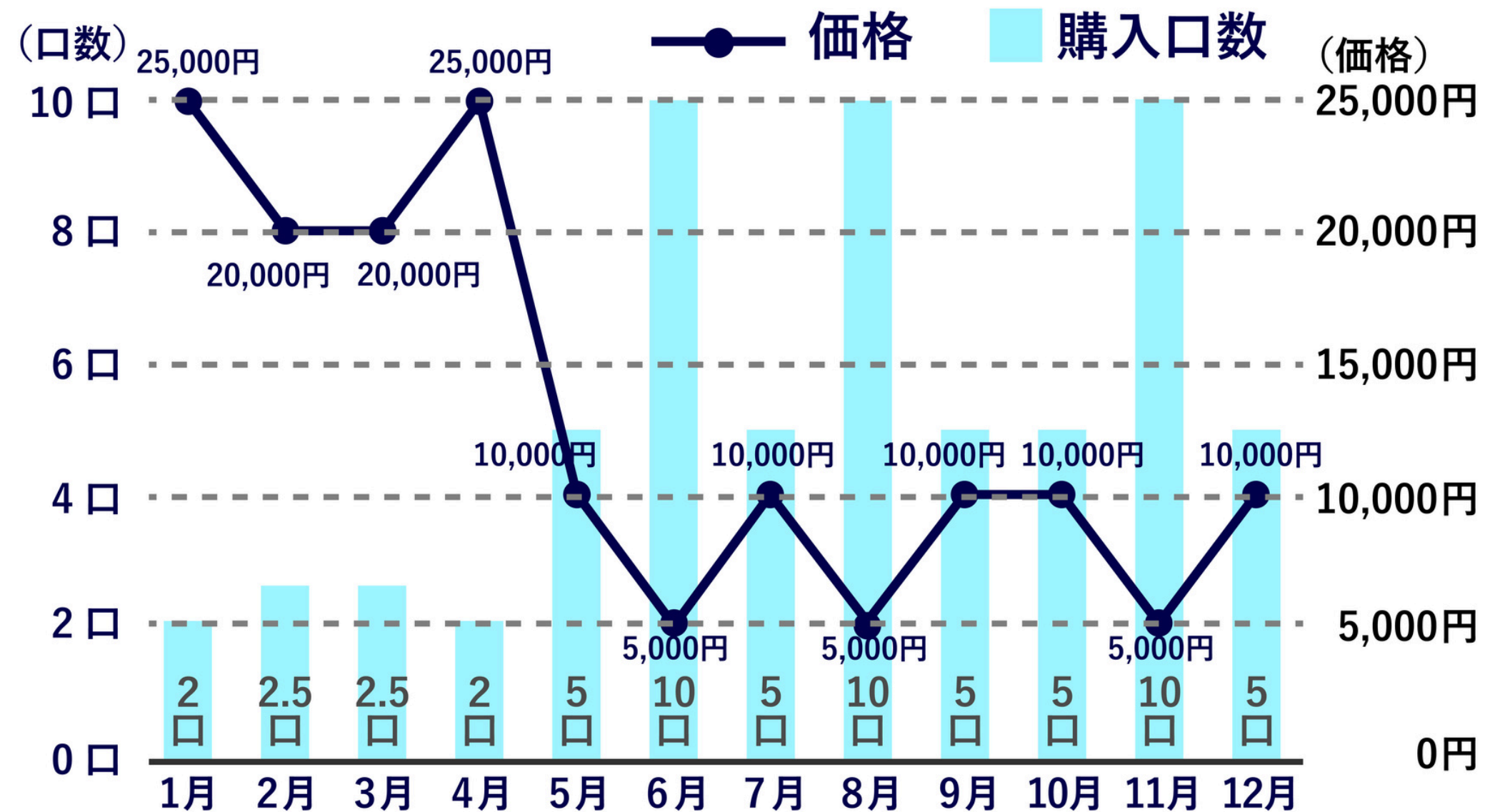
### 積立投資

- ・積立投資とは、「**あらかじめ決まった金額**」を「**続けて**」投資すること。  
**ドルコスト平均法。**

## ドルコスト平均法とは

# ドルコスト平均法

ある金融商品を月5万円分、12か月間値動きに合わせて購入すると…



元手 = 5万円 × 12か月 = 60万円      総購入口数 = 64 口

12月時点評価金額 = 10,000円 × 64 口 = 64万円

下落時は安く買えるチャンス！  
下落した時も粛々と続けること。

## ドルコスト平均法とは

### <メリット>

- 時間分散ができる  
→高いところで買ってしまい、その後値下がりするリスクを軽減
- 感情に左右されにくい  
→相場を気にしすぎずに粛々と積立できる
- 下落時に多く買える  
→安いときにたくさん買える

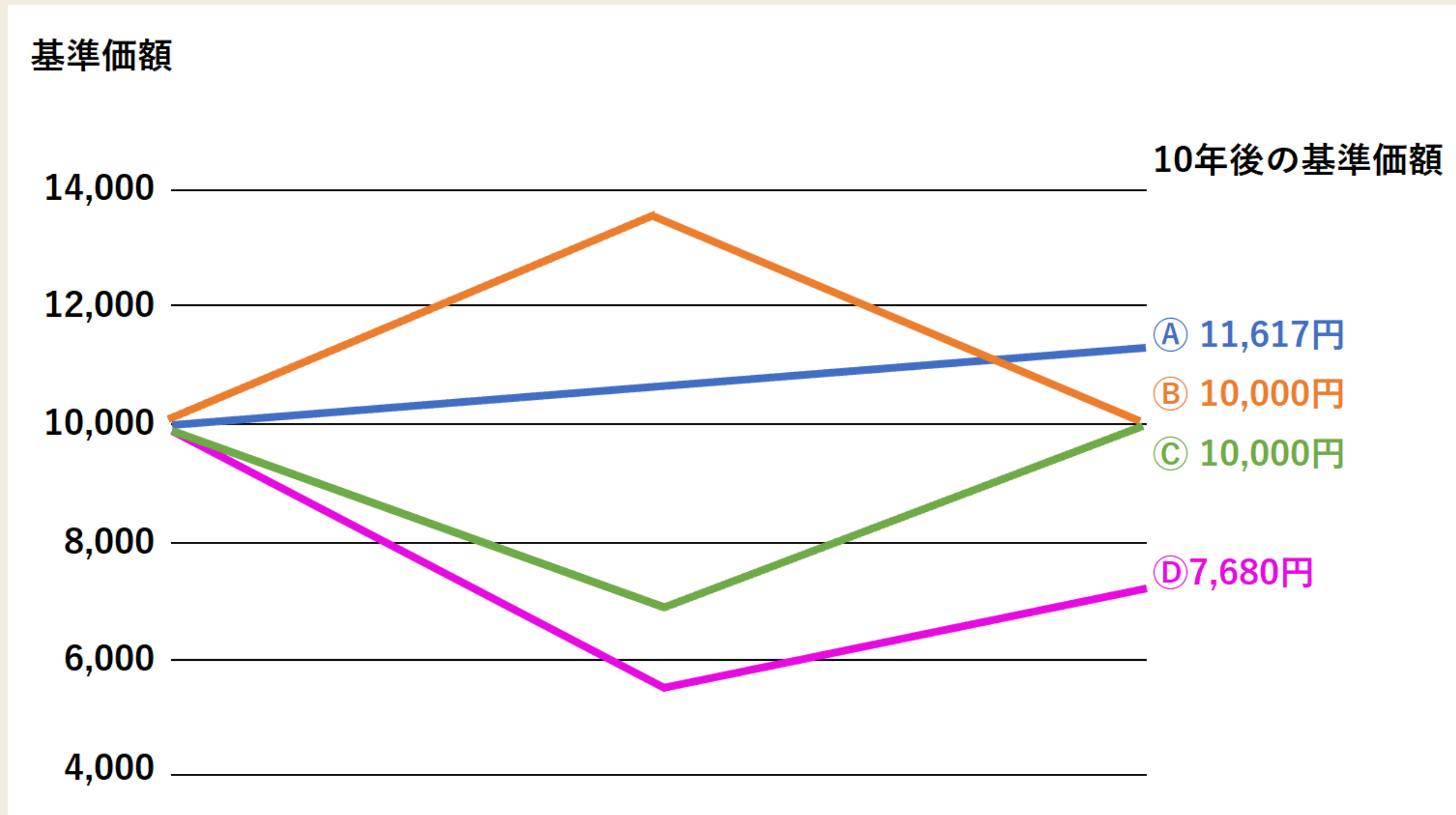
## ドルコスト平均法とは

### <デメリット>

- 上昇相場では一括投資に劣る（非効率）  
→右肩上がりの相場の場合、最初に一括投資した方が利益が大きいケースもある。
- 長期下落相場は精神的にきつい  
→積み立てしているのに、資産がずっとマイナス…、これでいいんだらうか？と不安が強くなる
- リターンの最大化手段ではない  
→あくまでも「**価格変動リスク**」を**ならず手段**  
一括投資や個別株投資よりリターンは控えめ

## ドルコスト平均法とは

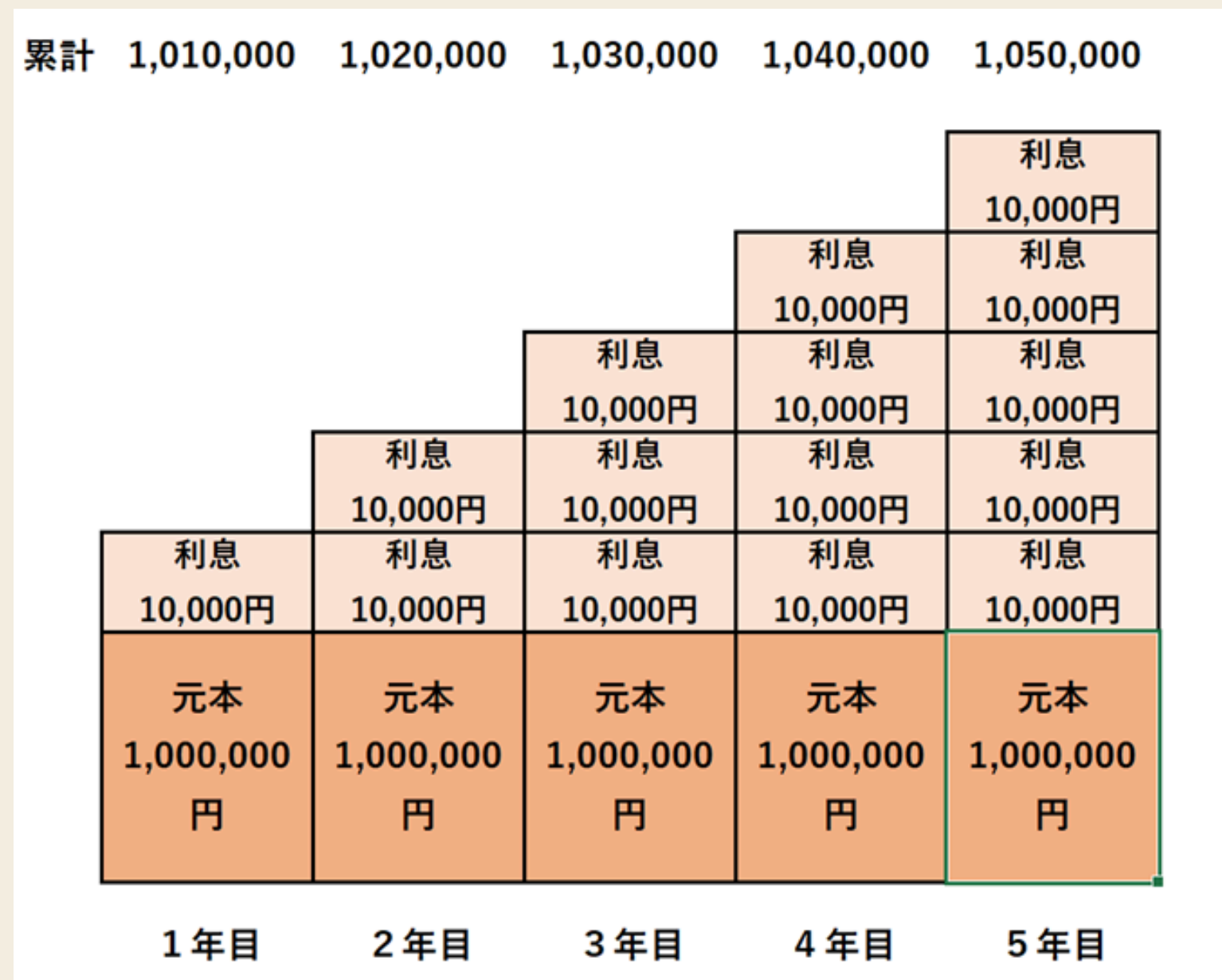
Q. 毎月1万円を積立した場合、ABCDの値動きのどれが10年後、一番増えているのでしょうか？



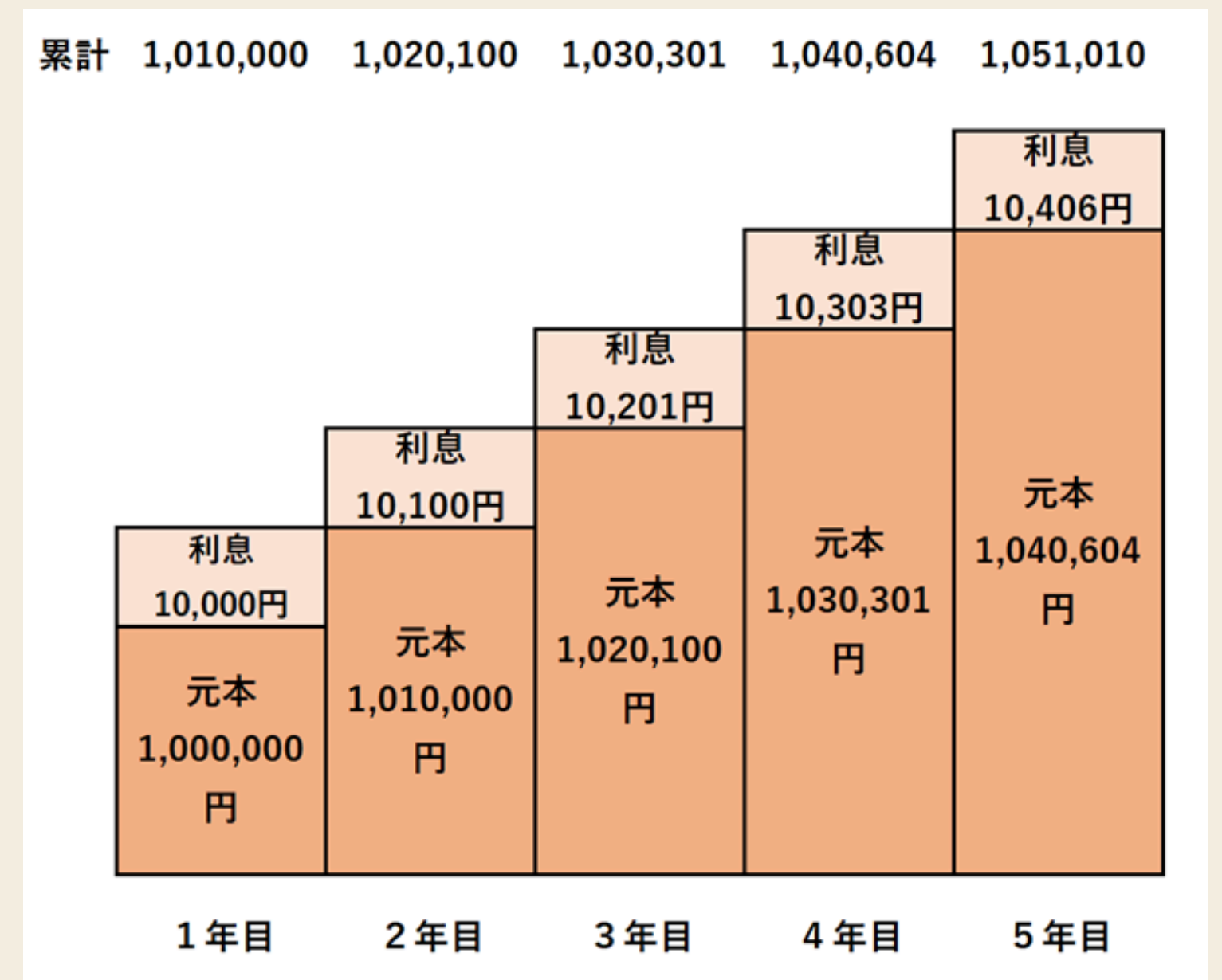
# 単利と複利

※例えば、元本100万円を年利1%で運用した場合の比較

## ◆ 単利



## ◆ 複利



- 単利の利子は元本に年利を掛けた金額で一定。
- 複利の2年目以降の利子にはそれまでの利子にも利子が付く。

# お金を増やすための人類最大の発明

複利は人類最大の発明である。

複利を知る者は複利で稼ぎ、複利を知らない者は利子を払う。

— アルベルト・アインシュタイン —

Compound interest is man's greatest invention

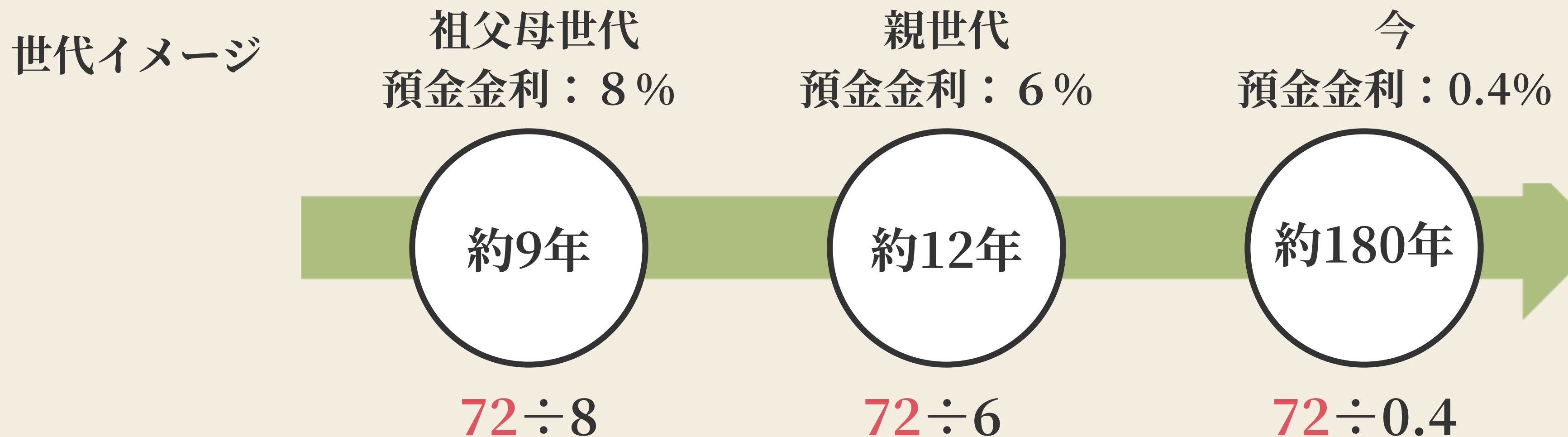
He who understands it, earns it. He who doesn't Pays it.



# 72の法則「元本が2倍になる金利と年数の関係」

$$72 \div \text{金利} = \text{お金が2倍になる期間}$$

(例) 1,000,000円 (元本) が2,000,000円になるのに必要な年数



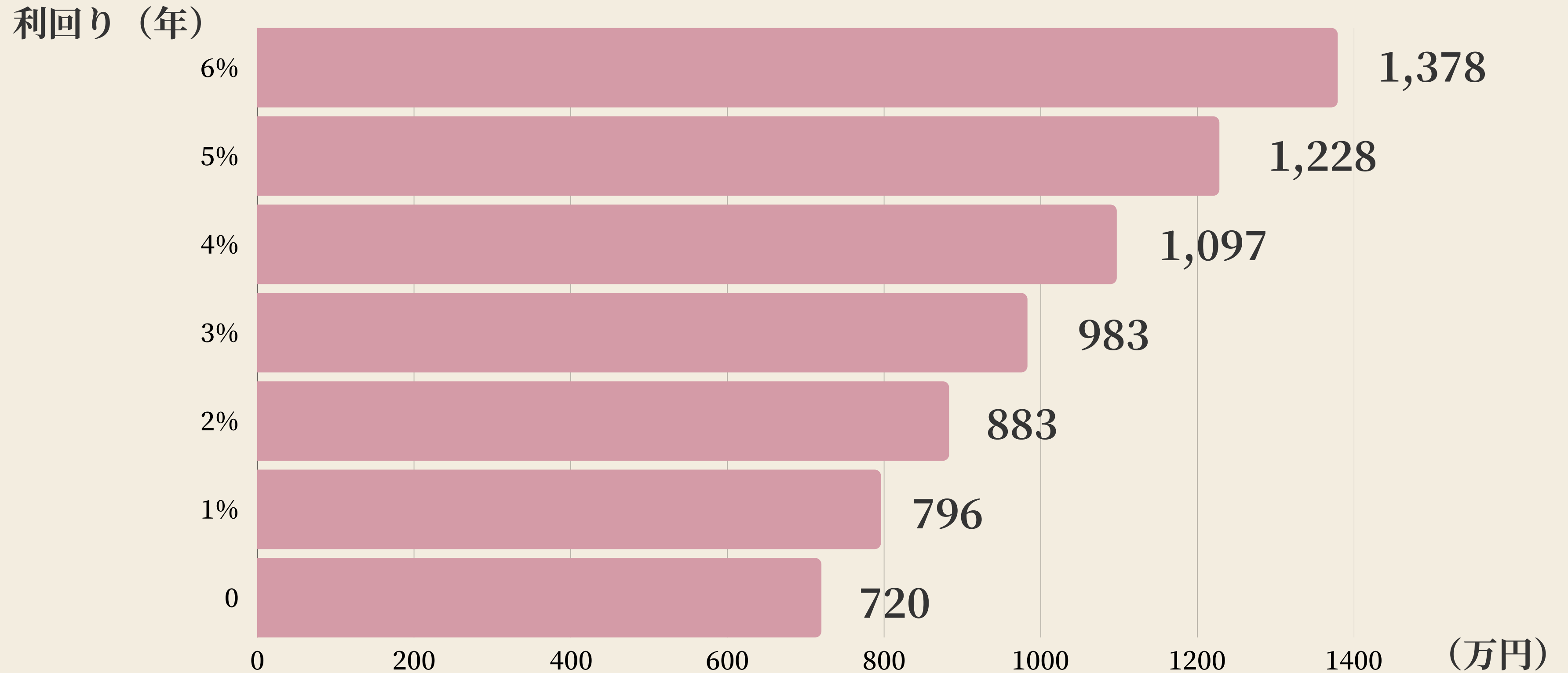
積立投資額が2倍になる期間がわかる「126の法則」

**126 ÷ 金利 = お金が2倍になる期間**

- 1%で運用した場合： $126 \div 1 = \text{約}126\text{年}$
- 2%で運用した場合： $126 \div 2 = \text{約}63\text{年}$
- 3%で運用した場合： $126 \div 3 = \text{約}42\text{年}$
- 4%で運用した場合： $126 \div 4 = \text{約}31.5\text{年}$
- 5%で運用した場合： $126 \div 5 = \text{約}25.2\text{年}$
- 6%で運用した場合： $126 \div 6 = \text{約}21\text{年}$
- 7%で運用した場合： $126 \div 7 = \text{約}18\text{年}$

# 複利の効果

※例えば、毎月3万円を積立投資（複利）で20年間運用した場合の比較



## 複利の効果

時間を味方につければ、1億円も夢じゃない。

以下の表は、**毎月積立・複利運用した場合**のシミュレーションです。

運用期間（年）	年利5%	年利7%	年利10%
10年	約64万円/月	約56万円/月	約49万円/月
15年	約35万円/月	約30万円/月	約25万円/月
20年	約22万円/月	約18万円/月	約14.5万円/月
25年	約15万円/月	約11.5万円/月	約8.8万円/月
30年	約10.5万円/月	約7.5万円/月	約5.6万円/月

※概算値（四捨五入）。税金や手数料は考慮せず。

## ワーク⑤

あなたの**生活防衛資金**はいくらくらい？

生活防衛資金とは、  
今の生活を安心して続けられるためのお金です。

「生活費の6ヶ月分＋ここ数年で使う予定のお金」  
が目安。

ただし、人によって安心感はそれぞれ。

## ワーク⑤

Q.もし収入が止まったとして、どれくらいあれば「慌てずにいられる」と感じますか？

大事ななのは、「自分の安心」を知る、ということ。